



## 魚釣りには 身近な釣り場で、 だれでも気軽に楽しめる。

鯉は日本各地の河川や湖沼に生息し、古くから釣り人に親しまれている魚です。優れた環境適応能力を備え、養殖放流も盛んに行われたため、日本のどの地方でも美しい姿を見ることが出来ます。その風貌と豪快な釣り味は淡水魚の王様として絶大な人気があります。

昔の鯉釣りはサツマイモのくわせを鯉の通り道に入れて、アタリを持つという釣り方で、一日、一寸といわれるほど、マニアックで難しい釣りだと認識されてきました。

しかし、鯉釣りは難しい釣りではありません。1本の竿の先に鉛を付け、市販の仕掛け、吸い込みダンゴエサで、遠くに出かけなくても身近な釣り場で、だれもが簡単に楽しめるやさしい釣りなのです。

鯉のタックルとエサの進歩は釣り人にとつて、大変うれしいことです。鯉竿を数本並べる鯉釣りのスタイルで、大鯉が数多く釣れるようになり、鯉防たちの夢とロマンは膨らみました。しかし、より多くの若い人や女性、子供たちにも、鯉釣りという楽しい夢を見させて上げたいのです。

鯉釣りで一般的な吸い込み釣りは、仕掛けを投げアタリを持つ釣りなので、アタリを持つ間、みんなで会話をしたり食事を楽しんだり、ゆったりとした鯉釣りを楽しむ時間を過ごします。休日にはファミリーがキャンプをしながら、鯉釣りでアウトドアライフを満喫できるのです。マルキューは釣れるエサ作りで釣り人の夢を、釣りの未来をサポートします。

さあ、鯉釣りにチャレンジしよう！

## でも鯉を釣るにはどうしたらいいの？

鯉釣りには吸い込み釣り（ぶっ込み釣り）とウキ釣りがあります。それぞれエサや仕掛け、釣り方は異なりますが、いずれも基本的な釣り方をマスターすれば、そんなに難しくはないのです。

より大物、より釣り人の夢が拡大すれば、鯉釣りに限らず、釣りそのものが奥深くなるのです。一匹の魚を釣るための努力もまた、釣りの楽しさです。その努力が実って釣り人も引き込む大鯉の強烈なパワーと対峙する時、至上の満足が得られるでしょう。しかし、魚の大きさに捕らわ



鯉のヒット、小鯉の網でも引きが強いよ。ほんとかうま入れに成功、やったね。

れず、自分のハりに掛かった小さな淡水の王者に優しく、喜びの目を向ける鯉釣りも忘れてはならないのです。

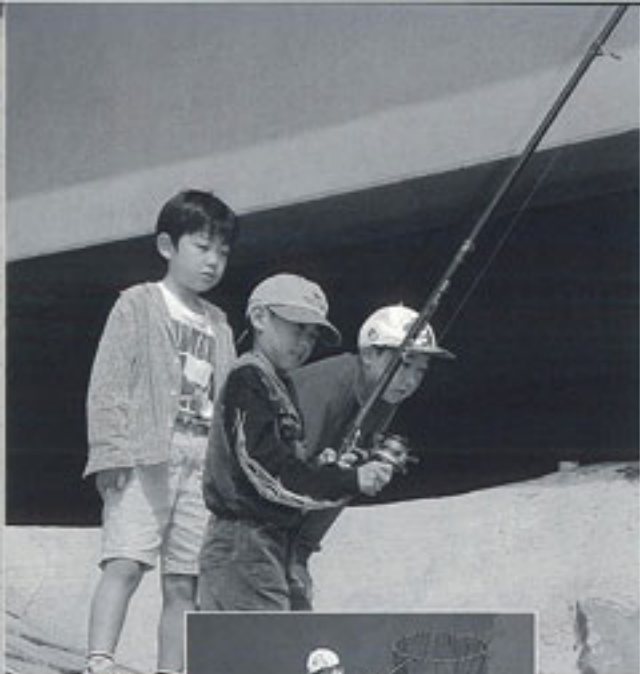
### 吸い込み釣り

鯉釣りの代表的な釣り方で一般に普及している吸い込み釣りについて述べてみましょう。

吸い込み釣りとはダンゴエサを投入してアタリを待ち、ダンゴエサに仕掛けたハリを、鯉が泳いだエサと一緒に飲み込んで、吐き出す時にハリ掛かりする釣り方です。吸い込み釣りで大鯉を狙う場合、急な引き込みや強烈なパワーに対処するため、投げ竿や磯竿、鯉竿にリールをセッティングするのが一般的です。

吸い込み釣りで最も重要な要素となるのが配合エサです。ネリエサが開発されてから、鯉が数多く釣れるようになり、その後、大鯉をターゲットにした配合エサや付けエサが工夫、開発され、釣果もグーンとアップしました。

吸い込み釣りにはダンゴの中のハリをすべて埋め込む釣り方と、ハリを全部ダンゴに埋め込まないで、1〜2本のハリにくわせの「いもようかん」や「くわせコーン」などを付ける方法があります。





# タ ッ ク ル を 揃 え よ う !

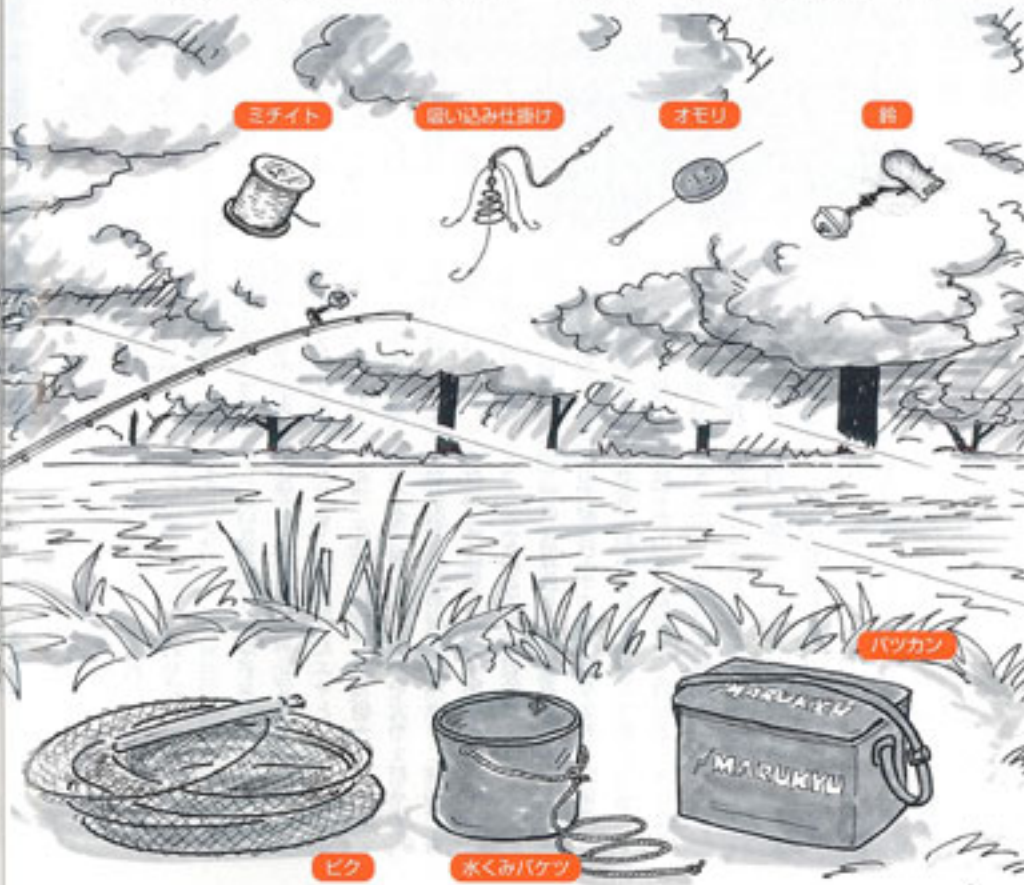
初心者が鯉釣りを始める時、竿やリールなどは大物用を特別に揃える必要はなく、投げ釣りや磯釣りの竿で充分です。鯉釣り専用の竿やリールなどのタックルを数点揃えると値段も高くなります。初心者はまず、3.9〜4.5mくらいの万能投げ竿か5m前後の磯竿1〜2本を用意し、市販の吸い込み仕掛けにダンゴを付けたタックルで始めましょう。

よくバランスの取れたタックルが良いといいますが、初心者にはどういいうものが、バランスが良いのかわかりません。短めの投げ竿が腰が強く、オモリとダンゴの重さに耐えられるので、投げやすいようです。リールは7〜10号くらいのミチイトが始めから巻いてある、安価なリールで充分です。

最初に揃えたタックルで、自分なりにやってみることが大切です。経験を積むと本当に自分に合ったタックルが見えてくるはずですよ。大切なことは人の目を気にしないで失敗を恐れず、鯉釣りを楽しむんだと思います。

## 鯉の吸い込み釣りに必要な道具

竿、リール、竿立て、イス、タモ、ピク、バケツ、ネリエサ用ボウル、鏡、水温計、ミチイト、市販の吸い込み仕掛け、オモリなどの他、暗くなった時の懐中電灯や竿先につけるライトもあると便利です。朝マズメ、夕マズメというように、鯉はまだ薄暗い早朝や暗くなる夕方にアタリがあることが多く、いざという時に役立ちます。



# 吸い込み釣りの仕掛け

竿先や鉛でアタリを見て、鯉のアタリがそういうものであるかを肌で感じた方が、鯉釣りの面白さをより味わえると思います。

タックルが特にこれといったものが要でないように、仕掛けも市販されているもので充分です。しかし、仕掛け、エサなど、自分なりに工夫して鯉を釣れば、鯉釣りがよりいっそう楽しくなります。鯉釣りが普及し、釣り人の経験から導き出された様々な工夫によって、ハリの本数、種類など、いろんな吸い込み仕掛けのバリエーションができました。

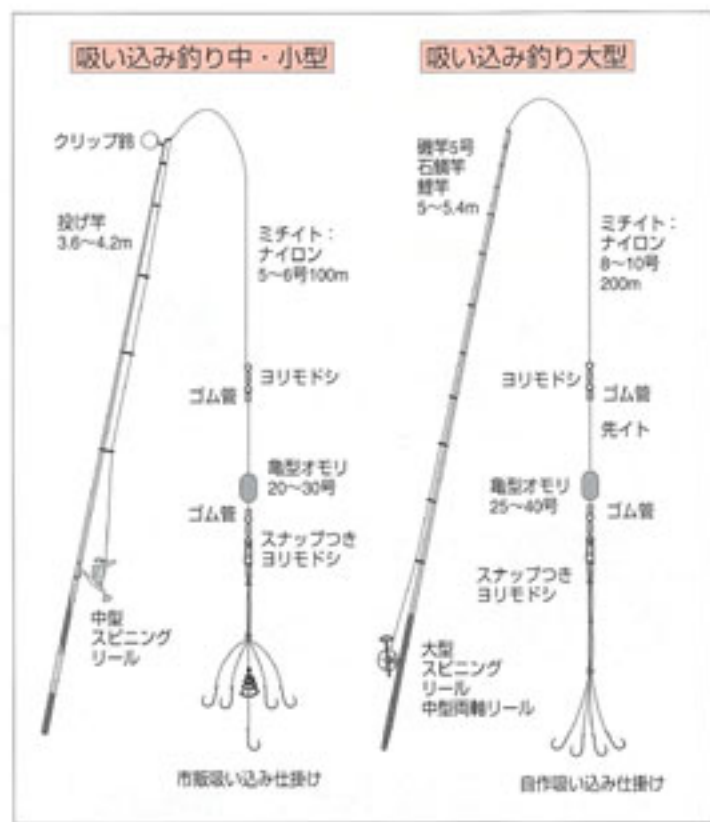
ミチイトやハリスも強度が増し、鯉が比較的簡単に釣れるようになりましたが、仕掛けの強度にだけ頼るのではなく、繊細なタックル、細い仕掛けで鯉とやり合うスリリングなファイトも、ぜひ経験して欲しいものです。

## 仕掛けを作ろう！

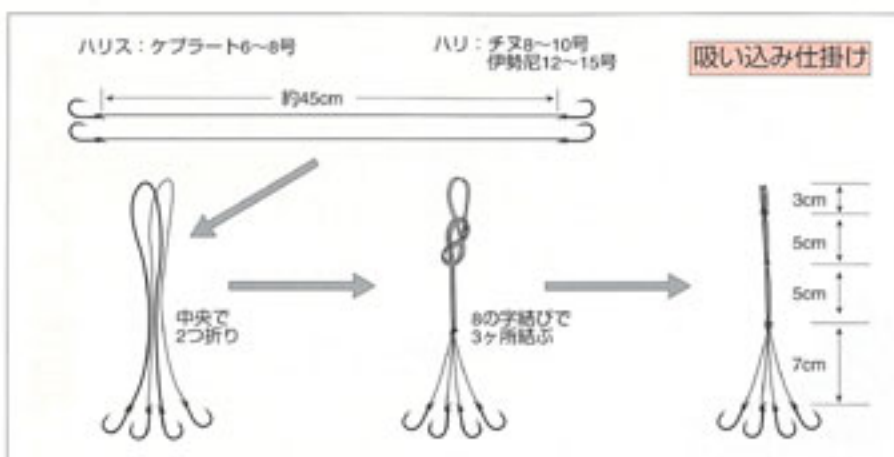
吸い込みの仕掛けは固定式と移動式と

があります。移動式の二本バリ仕掛けは、根掛かり

の多いポイントで、鯉が釣れて強く引かれることにより、片方のハリスが移動して一本バリとなり、障害物に他の遊びハリが引っ掛かることなく、取り込みやすい利点がある。



## 吸い込み仕掛け



固定式ではハリの本数はできるだけ少ない方が根掛かりも少なく、鯉に与えるダメージも少ないので良いと思います。大物狙い用に使いやすくて信頼のおける、自分で工夫した仕掛けを作ってみましょう。

## ◆ その他の小道具

### ◆ オモリ

鯉の吸い込み釣りで重要な役割を果たすのがオモリです。仕掛けを鯉のいるポイントに投入できなければ鯉は釣れません。竿のオモリ負荷とダンゴの重さを考慮して使います。

オモリもいろんな形、大きさがありますが、よく使われるのが20、30号くらいの魚型オモリかコインオモリです。釣り方、釣り場によって形状や重さを使い分けます。

河川では流れに仕掛けが流されないように安定した重めのオモリを使い、湖沼では流れがないので軽めの

オモリでも大丈夫です。

### ◆ ハリ

鯉専用のハリがメーカーから数多く製作されてきているのは、鯉にとってもうれしい限りです。ハリも形、サイズいろいろありますが、エサの種類、釣り方により使い分けれます。

鯉釣り専用のハリ18、24号や8、10号の「チヌ」、16、20号の「海津」、12、15号の「伊勢尼」などがよく使われます。

### ◆ 小物類

鯉の吸い込み仕掛けを作るのに必要な小道具として、ヨリモドシ、サルカン、ゴム管などを使います。せっかくハリ掛かりした獲物を逃がさないように、ある程度強度のある信頼のおける物を選びましょう。



市販されている吸い込みのハリ、仕掛けを作る手順がいろいろ、簡単に初心者向き。



# ポイントを見つけよう!

鯉釣りの上手な人、毎日釣り場に通いつめてもアタリもなく釣れない人、どこに原因があるのでしょうか。釣れない理由は季節、時間帯、エサなど様々な要因があるでしょうが、まず一番の理由はポイントにあると思われます。いくら腕の良い釣り師でも鯉のいない場所に竿を出しては釣れません。

河川、湖沼と多少の違いはありますが、エサがたたくさんある安全な所、酸素含有率の高い水のある所、季節により水温の安定した所などが鯉のいる場所です。

次に大川と湖沼のポイントを具体的に述べてみましょう。

## ①大川のポイント

流れの緩やかな橋脚



乱杭で流れが緩やかな所などが、大川のポイント。

回り、乱杭、ワンド内の波消ブロック、流れ込みのある所やカーブの内側などです。

## ②湖沼のポイント

脚の先端回り、沖合の杭回り、舟溜り、舟道付近水門の前、ワンド内のオダ、比較的浅場で藻の周辺などです。



沖合の杭回りや舟溜り近、水門の前などが湖沼のポイント。

その他の鯉釣りの場所としては山上湖があります。山上湖は平地の湖、池、沼と違い、周りが雑木林に囲まれ釣り座も少なく、季節により水温、水位の変動が激しく非常に難しい釣り場です。鯉の絶対数も少なく、警戒心も強く、初心者が攻めるのはあまりお勧めできません。経験者も充分積んでからチャレンジしてみよう!

ポイントは季節により変化します。春の乗っ込み、秋の葉食いといわれるように、この時期が最も鯉釣りに適した季節です。広い湖で杭などのポイントの目安がない場合、初心者には竿を出すのが不安になるでしょう。良いポイントを見つけるコツとして、鯉のハネ、もしりや泡つけのある所を目安にカケアがり、すなわち鯉の通り道を探すことです。

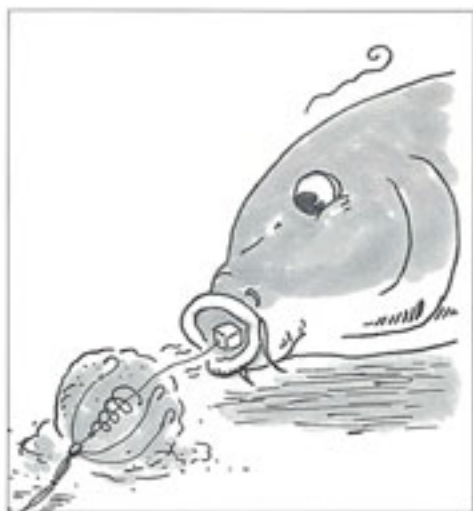
最近の傾向として、岸攻めが注目を集めています。夕方暗くなると、鯉がエサを求めて浅場に接近してきます。自然のエサは深場よりも浅場の岸寄りに集まることが多いのです。



# 吸い込み釣りエサの基本

鯉が吸い込みエサを口に吸い込んだり、吐き出したりする時にハリ掛かりするの  
が、鯉の吸い込み釣りです。吸い込みエ  
サに仕込んだハリを、いかに効率良く鯉  
の口にハリ掛かりさせられるかが重要で  
す。従ってバラケ、エサの固さが問題に  
なるのです。

寄せエサは鯉をおびき寄せる目的のた



めのもので、匂いなどでできるだけ早く  
鯉を誘います。

鯉釣りの吸い込み釣りのエサは「巨鯉」  
「鯉パワー」「大い」などたくさん  
の種類があります。バラケを重視した配合  
エサ、集魚性のある配合エサなど、それ  
ぞれの特長を活かし、時期に応じて鯉が  
好むエサを使い分けましょう。

吸い込み釣りに付けるくわせエサは、  
溶けた寄せエサがなくなった場合の吸い  
込みエサの補助的な役目、付録という考  
え方もありますが、「手づくり草」や「い  
もようかん」を鯉が好んで口にすると考  
える釣り人もいます。くわせエサは柔ら  
かさが問題になり、釣果に差が出ること  
があります。エサの付け方の創意工夫も  
また、楽しからずです。

創業以来、釣りエサの開発に取り組み、  
鯉エサに力を入れてまいりましたマルキ  
ューが提唱する鯉釣りは、だれでも簡単  
に気軽に楽しめる鯉釣りのスタイルです。

## 吸い込みエサを作ってみよう！

- 例として「大い」1袋、「丸鯉」1/2袋のエサを容器に入れ、よく混ぜ合わせる。
- 水を同回かに分けて加え、指先でほぐしながら混ぜる。
- パサパサのオカラ状になるように仕上げる。全体が均一になるように練るとバラケにくい。
- 手の平に水を付けてダンゴの固さを調整する。
- ダンゴを半分に割り、その中に市販のラセンを入れる。
- ダンゴをしっかりと握る。

### 吸い込み用ダンゴエサの作り方

河川、湖沼では、流れがあるか、ないかの条件の違いはありますが、配合エサの選択が違っただけで、作り方は基本的に同じです。それぞれのエサの特長を活かすために混ぜる種類を少なくしました。

- くわせに「いもようかん」などを付ければでき上がり。
- ダンゴの中にハリを埋め込む。



植物性の麦、ニンニク、マッシュポテトなどや、動物性のサナギ粉、魚粉、カニ粉など、様々な素材を使い、鯉が釣れるエサの研究開発に取り組んでいます。



「巨鯉」「鯉パワー」などをベースに、集魚性のある「鯉頭」などのエサを加えて、吸い込み釣り用の配合エサを作る

鯉釣りの変化に対応した、より釣れるエサの開発に努力は惜しみません。  
**エサの素材**

鯉のエサには植物性のものと動物性のものがあります。植物性の鯉のエサという、だれもが思い浮かぶのがサツマイモです。サツマイモは鯉釣りの万能エサとして人気が高く、マルキューの配合エサのベースにも使用されています。その他の植物性の素材としては大麦、

胚芽炒り麦、ニンニク、マッシュポテトなどがあります。それぞれの材料を鯉の食性に合うように配合し、バラケなども考慮して、吸い込みエサとして長年研究し完成したものが、季節、釣り場に応じて使い分けられています。

動物性のエサの素材はサナギ粉、カニ粉、魚粉、オキアミなどがあります。動物性タンパクは集魚力を高めます。



# 吸い込みエサ・ブレンドパターン

## 河川のブレンドパターン参考例



大こい・1袋 荒喰・1/2袋



大こい・1袋 五大魚・1/4袋



鯉パワー・1袋 鯉師・1袋

鯉の吸い込み釣りのエサはたくさんの種類があります。各エサに特長があり、釣り場の状況によってそれぞれ使い分けられます。

もちろん単品でも鯉は釣れますが、エサの特質を見極めながら、自分でブレンドしてみましょう。

参考までに吸い込みエサの配合パターンをいくつか例に挙げて紹介しましょう。それらを参考に自分だけのオリジナルブレンドのエサを作って鯉釣りを充分楽しんでください。

### ダンゴのバラケ方

- 1 投入直後  
直径約8cm
- 2 まもなくバラけはじめる
- 3 約30分以内で移がくずれるように完全にバラける
- 4 真上から見ると甲たく広がっている

## 河川のブレンドパターン

河川の吸い込みエサを作る場合、問題となるのが、川の流れです。流速を考慮したエサを作る必要があります。比較的比重の大きいエサ、たとえば「大こい」や「鯉パワー」に、「荒喰」「鯉師」などのまとまりのあるつなぎエサをブレンドして固めに作ります。ウニ、卵黄などの動物性タンパクをたっぷり配合した「五大魚」をブレンドするのも効果的です。

くわせには「いもようかん」を使います。

## 湖沼のブレンドパターン参考例



鯉パワースペシャル・1袋 みどり・1/3袋



鯉パワースペシャル・1袋 鯉のぼり・1袋



鯉将・1袋 鯉師・1袋

## 湖沼のブレンドパターン

湖沼の場合、河川に比べ、流れが少なく、吸い込みダンゴが流される心配がないので、ダンゴが5〜15分くらいで溶けてくずれるようにすることが重要なのです。

「鯉パワースペシャル」などは単品で充分大型が狙えます。ベースの配合エサに、粒子が荒く、バラケ性の良い「スーパー鯉むぎ」を加えたり、「ゴイミー」「スイミー」などの集魚性の高い寄せエサを入れると効果的です。

バラケは、水の量とにぎり方で調整します。水温が高い時はバラケが早く、水温が低いと遅くなります。水の量は全体的に少なく、ダンゴを多少固めに作りま

す。

エサの大きさはミカン大。くわせエサを使う時は、マルキエーの「いもようかん」を使います。鯉の味覚を刺激し、アミノ酸など誘因効果を発揮する「鯉にこれだま」は後から適量加えます。基本さえマスターすれば、初心者でも難しくありません。

これらはあくまでも参考例です。どれが良いかは、各自釣り場でいろいろ試してみてください。

独自のブレンドで、大鯉をゲットしよう！



# 季節によるエサのブレンドパターン

## 早春 (3月上旬~4月)



## 晩春 (5月~6月)



## 初秋 (8月下旬~9月)



## 晩秋 (10月~12月)



**早春のエサのブレンドパターン**  
ほとんど絶食状態で過ごした冬も去り、やっと動き出した鯉は体力回復のため、栄養価の高い、消化の良い動物性エサを好みます。植物性素材が中心で巨鯉狙い

に実績がある「鯉パワー」をベースに動物性タンパクを多く含んだ「鯉師」などをブレンドします。

**晩春のエサのブレンドパターン**  
5月中旬になると水温も安定して鯉も

産卵場所を求めて回遊し、浅場で完食をします。雑食で食欲旺盛な鯉はどんなエサも食べますが、大型も産卵前まで回遊してくるので、長時間エサ持ちのする粒子の荒い「巨鯉」で大鯉を狙う絶好のチャンスです。集魚力のある「鯉師」や荒粒の「スーパー鯉むぎ」を加えるとさらに効果的です。

### 初秋のエサのブレンドパターン

8月も中旬までは水温が高く、鯉の動きも良くありませんが、9月になると一気に活発になります。8月はまだ暑く夜釣りに釣果が得られます。冬への準備で完食いするため集魚力が高く、アタリの早い「鯉師」をベースにします。鯉の好むサツマイモを大量に配合した「鯉むぎ」は数釣り狙いに優れた威力を発揮します。

### 晩秋のエサのブレンドパターン

10月は秋も深まり鯉が完食するので、大鯉との出会いのチャンス。「巨鯉」をベースに「鯉師」のエサは晩春と同様、荒い粒子でジャミに強い集魚力の高いブレンドです。さらにバラケが良いように「スーパー鯉むぎ」を加えます。

11月下旬、水温が低下して食いが涼くなったら、鯉は浅場から深場に移動して越冬の準備に入ります。この時期、数は望めませんが一発大物狙いがあります。